

氏名： 近藤 和雄 (KONDO Kazuo)
 所属： 人間文化創成科学研究科自然・応用科学系
 学位： 医学博士 (1986 東京慈恵会医科大学)
 職名： 教授
 専門分野： 医学 (内科学)、脂質代謝学、臨床栄養学
 URL： <http://pea.ieshl.ocha.ac.jp/kondo/default.htm>
 E-mail： kondo.kazuo@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

動脈硬化／脂質異常症／活性酸素／抗酸化作用／ポリフェノール
 atherosclerosis / dyslipidemia / free radical / antioxidation / polyphenol

◆主要業績

総数 (13) 件

- Harumi Uto-Kondo, Chikako Kiyose, Reiko Ohmori, Hisako Saito, Chie Taguchi, Yoshimi Kishimoto, Naoko Machida, Maiko Hasegawa, Eri Yoshioka, Emi Saita, Yumiko Hirata, Osamu Igarashi and Kazuo Kondo: The coantioxidative effects of carboxyethyl-6-hydroxycholesterol
- Toshio Iwata, Takeshi Kamegai, Yoshie Yamaguchi-Sato, Akiko Ogawa, Michio Kasai, Toshiaki Aoyama and Kazuo Kondo: Safety of Dietary Conjugated Linoleic Acid (CLA) in a 12-weeks Trial in Healthy overweight Japanese Male Volunteers. Journal of Oleo Science. 56(10): 517-525, 2007
- Mariko Tani, Akio Kawakami, Miyuzu Nagai, Kentari Shimokado, Kazuo Kondo, Masayuki Yoshida: Sphingosine 1-phosphate (S1P) inhibits monocyte-endothelial cell interaction by regulating of Phox activity. FEBS Letters. 581: 4621-4626, 2007
- Harumi Uto-Kondo, Mariko Tani, Chikako Kiyose, Mika Usuda, Chie Taguchi, Maiko Hasegawa, Naoko Machida, Yoshimi Kishimoto, Hisako Saito, Tadahiko Ueda, Osamu Igarashi and Kazuo Kondo: r-Tocopherol Accelerated Sodium Excretion in a Dose-Dependent Manner in
- Hiroyuki Takeuchi, Chika Sakurai, Ryuuji Noda, Seiji Sekine, Yoshihiro Murano, Kou Wanaka, Michio Kasai, Shinji Watanabe, Toshiaki Aoyama and Kondo Kazuo: Antihypertensive Effect and Safety of Dietary α -Linolenic Acid in Subjects with High-Normal Blood Pressure

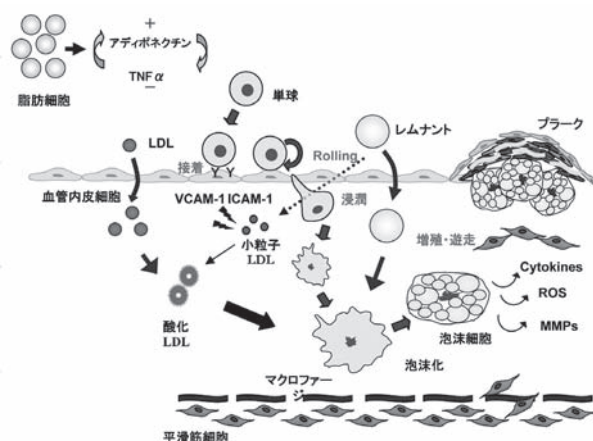
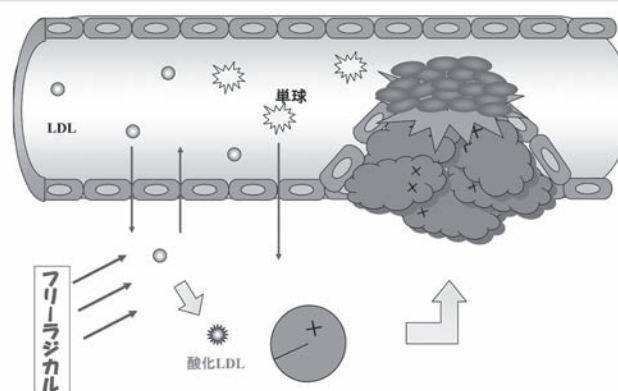
◆研究内容 / Research Pursuits

食物と人体の関わりをテーマに、心筋梗塞、脳梗塞をおこす動脈硬化の予防を念頭において、応用研究を主体とした研究活動を行なっている。

これまで、生体内の LDL 酸化抑制作用ならびに食後高脂血症改善作用を有する赤ワイン、緑茶などのポリフェノールを含有する食物の存在を明らかにしてきた。

2007 年度は、にがりの脂肪細胞分化促進作用、紅こうじやレモンなどの柑橘類の MMP 活性抑制・単球接着抑制作用、シソ、南米原産植物 Matico、バルサミコ酢の抗酸化作用などを明らかにして、これらの成果を、日本栄養・食糧学会、日本動脈硬化学会などで発表している。

動脈硬化と悪玉コレステロール (LDL) の新しい関係



◆教育内容 / Educational Pursuits

学部では、生活科学部食物栄養学科で、病態栄養学、医学概論を担当し、動脈硬化を引き起こす高脂血症、肥満、糖尿病、高血圧、メタボリックシンドロームなどの生活習慣病における診断、治療について食物との関わりを中心に講義している。

大学院では、学部の講義を一步すすめて、動脈硬化症の成り立ち、老化の問題を、リポ蛋白代謝を中心に、活性酸素と活性酸素に対抗する食物に含まれる抗酸化物の関わりを、生体防御、この防御システムの観点から講義している。

◆研究計画

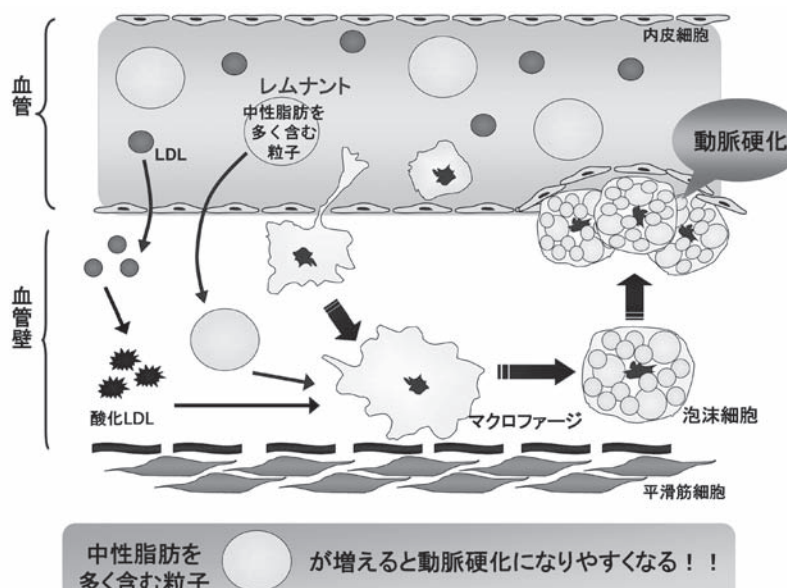
様々な疾病の予防に、食物に含まれるポリフェノールを中心とした抗酸化物の関与が明らかになっている。ポリフェノールは、LDLの酸化抑制をはじめ、動脈硬化の進展抑制にあらゆる課程で関わっている。ポリフェノールなどの動脈硬化抑制の役割を明らかにするとともに、病気の発症を予防する食環境を探索し、生活習慣病を発症させない食生活を構築する。

【共同研究の可能性】

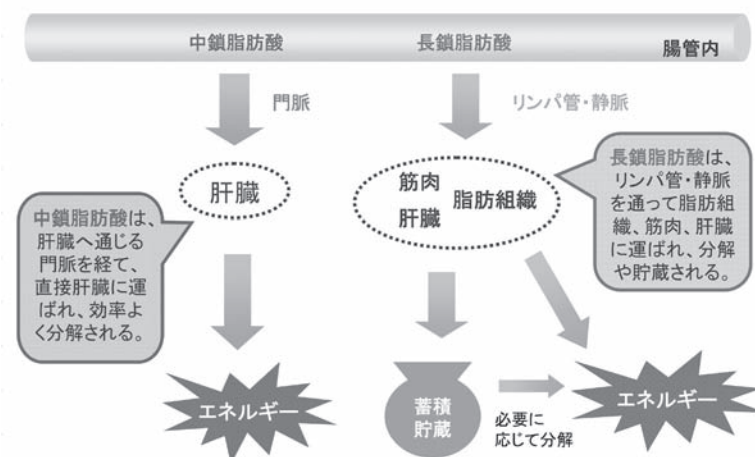
- ・抗動脈硬化作用を有する食品の研究
- ・ヒトを対象とした食品の機能性に関する研究
- ・遺伝子多型を基にしたテーラーメイド食事療法に関する研究

◆メッセージ

食物と人体の関係の研究に興味のある学生諸君の来訪を待っています。



中鎖脂肪酸の代謝経路



Dietary Fat Requirements in Health and Development, AOCs(1988), Edited by Joyce Boare-Hogers